

報告タイトル

中国における中小金融機関の設立・撤廃とマスライン

“The Rise and Fall of Small and Medium-sized Financial Institutions and Mass Line in China”

自由応募分科会1: 中国金融発展の軌跡と課題

“The Development and Reform of China’s Financial System: Trajectory and Challenges”

氏名(所属)

門 闢(大阪産業大学)

MEN Chuang (Osaka Sangyo University)

要旨(800字程度)

中小金融機関の成立と経営の健全化は、中国に限らず世界的な金融問題のひとつである。その理由は、小口の預金者や融資先を顧客に、資金コストが逡増することにある。この問題は、古くから金融弱者救済の課題として議論されていたが、最近では、金融システムの健全性を維持するために、世界銀行が提唱する「金融包摂(Financial Inclusion)」による包括的な解決が提案されている。

中国では、計画経済期に進められた農村信用組合や、改革開放と同時期に自然発生的に現れた都市部信用組合、さらにはマイクロファイナンスの一環として推進された貯蓄共同組合や農村地域における金融の不在を打開するために作られた新型農村金融機関(村鎮銀行など)が、このような中小零細の金融機関である。これらの金融機関は、国有の「大銀行」と異なり、民間レベルの金融組織である。

しかし、中国の金融における政府の支配は、より正確には政治の支配といえるが、これらの金融組織においても存在する。本報告では、上記の金融機関を対象に共産党の政治路線のひとつである「マスライン(mass line)」を切り口に、本来民衆レベルの金融組織における政治社会の影響を分析対象とし、金融組織の廃立をめぐる金融当局の対処法からみられる政治路線の長期的な影響を考察する。

そのために本報告では、2つの側面から金融における政治の影響を検討する。まず、金融発展におけるマスライン方法の長期的な影響に注目する。群衆を動員する政治目標は普遍性への探求という性質をもち、モデル化された組織や経営様式の推奨・制限を通じ金融当局の行動に影響を及ぼし、金融機関の成立と撤退のサイクルが生じる。本報告ではこのようなサイクルについてその特徴を示した上でどのように認識すべきかを検討する。

次に、金融機関の廃立において標準的なモデルへの追求が、地域間の格差を引き起こす理由について考察する。広大な中国において、統一的な手法が実施されたにもかかわらず、なぜ地域間の違いが生じたのか、各地の行政区画の特徴からその要因を特定する。